

LESSON 17

企画書の作成者が「根本的なブレークスルーが見えない」「製造ラインの都合でサイズ変更が難しい」と行き詰まりを感じている現状を踏まえ、オズボーンのチェックリストの9つの視点から、既存の課題や制約を活用した新アイデアをご提案します。

1. 転用（他の使い道はないか？）

- ・「書く」以外の用途を付加する：ターゲットを社会人全般としている点に着目し、広げた状態で「PC作業時のマウスパッド」や「デスクマット」として機能する質感の表紙にする。
- ・用途を限定する：「誰でも使える」をあえてやめ、例えば「1on1ミーティング専用」「パスワード・アカウント管理専用」など、社会人の特定業務に特化したフォーマットにする。

2. 応用（他からアイデアを借りられないか？）

- ・付箋のアイデアを応用：全ページにミシン目と弱粘着の糊をつけ、書いたページを剥がしてPCモニターや壁に貼れるようにする。
- ・ファイルのアイデアを応用：30穴バインダーに入れると他の書類が入らなくなるという課題に対し、ノート自体にポケットや名刺スリットをつけ、ノート自体を「ファイル」として機能させる。

3. 変更（色、形、意味、動きを変えられないか？）

- ・罫線の意味を変える：既存の6mm罫や5mm方眼ではなく、「思考を整理するためのマンダラチャート」「時間管理用の24時間タイムライン」など、フォーマット自体を特殊なものに変更する。
- ・紙の色を変更する：「裏移り」を気にさせないために、あえて黒やネイビーの濃い色の紙を採用し、白やパステルカラーのペン（不透明インク）で書く専用ノートにする。

4. 拡大（大きく、厚く、長くできないか？）

- ・極端に分厚くする：ページ数について「多い方が良い」「薄い方が良い」と意見が割れていますが、あえて「1年分（365ページ以上）」の超極厚ノートにし、

500円ではなく2000円程度の「辞書のようなアーカイブ用プレミアムノート」として打ち出す。

- ・紙を極端に厚くする：製造ラインの都合でサイズ変更ができないのなら、紙質を画用紙レベルに厚くし、油性マーカーでも絶対に裏移りしない 堅牢なノートにする。

5. 縮小（小さく、薄く、軽くできないか？）

- ・極端に薄く・分割する：「持ち運びやすい」という声を重視し、1冊を「10枚（20ページ）」程度に極限まで薄くする。これを5冊セットにして500円で販売し、プロジェクトごとに使い捨て・差し替えができるようにする。これならバインダーに収納してもかさばりません。

6. 代用（他の素材、プロセスに代えられないか？）

- ・表紙の素材を代用：カバンの中で角が折れるという課題に対し、表紙を硬い厚紙から「曲がっても元に戻る柔軟なTPU素材（スマホケースのような素材）」や「洗える耐水素材」に代用し、プレミアム感を演出する。
- ・紙を代用：石から作られるストーンペーパーなどの特殊素材に代用し、「絶対に破れない・水に濡れても書ける」といった機能を付与する。

7. 置換・再配置（要素や順番を変えられないか？）

- ・罫線を再配置する：ページ全体に罫線を引くのではなく、「左半分は方眼、右半分は無地」「上部はドット、下部は罫線」など、1ページの中でフォーマットを再配置し、図解と文章を分けて書けるようにする。

8. 逆転（前後、左右、上下を逆にできないか？）

- ・裏移りを「逆手」にとる：油性マーカーで裏移りするという不満を逆転させ、裏に滲んだインクが美しい模様になるような特殊な紙の層を作る。
- ・左右・上下をなくす：どこからでも書けるよう、表紙のロゴや上下の概念をなくし、縦開き・横開きの両方で使える「無指向性ノート」にする。

9. 結合（目的、アイデアを組み合わせられないか？）

- ・異なるニーズを結合する：「万年筆ユーザー向けの紙の手触り」と「油性マーカー向けの裏移り防止」の相反するニーズを結合し、見開きで「左ページは万

年筆用のツルツルした紙、右ページはマーカー用の厚手で滲まない紙」という2種類の紙を交互に製本する。

- ・ノートとバインダーの結合：バインダーへの収納性に着目し、ノートの背表紙自体が簡易的なリング機構になっており、使い終わったページから直接30穴バインダーに移行できる構造にする。

現状の企画書ではターゲットが「社会人全般」と広く設定されており、ペルソナが未定となっています。これらのアイデアを絞り込むために、次回の会議で予定されている「ペルソナの明確化」を先に行うのが効果的かと思われますが、特定のユーザー像（例：外回りの営業、アイデア出しをする企画職、万年筆愛好家など）のペルソナ案を一緒に作成してみましょうか？